

# 子どもが書き残したのから見えてくる躓きの傾向と 指導改善の提案

～小学校英語の学びを確かなものにするために～

於 京都教育大学 (JES近畿・京都大会)

佐藤玲子 (明星大学)

大槻友紀 (明星大学)

松津英恵 (東京学芸大学附属竹早中学校)

久埜百合 (中部学院大学)

# 児童の躓き

書く段階で起こる間違いについて、予備知識があれば、



児童が自力で気づき、修正できるような指導法をみつきたい。

# 指導方法の改善について

- 児童生徒の書いたものにどのような躓きがあるかを調査



- 躓きの原因とそれを起こさないための指導についての取り組み



研究目的は、spellingの修正だけでは解決しない、言語習得のプロセスを包括的に見取るものである。

# 研究の背景・課題

- 児童の文字の取り組みの躓きの原因は、どこにあるのだろうか。
- 児童への文字指導は、3年次の国語・ローマ字指導で、文字の形、文字名、文字を表す音について始まっているので、初歩的な文字・単語への読み取る関心が育っていると考えて良いのではないか。
- 音声での教師と児童とのやり取りを大切にすることで、多くの躓きは避けることができるのではないか。

## 3つの取り組みについて

- 小学校2校の5年生116名, 6年生24名
- 中学校3校の1年生110名(5月), 140名(2月)を対象

I:

- (1) 小学校5年生、6年生を対象にした「文字クイズⅣ」
- (2) 2023年5月連休前の中学1年生を対象にした「書けるかなクイズ」

Ⅱ: 2023年2月、中学1年生を対象とした英作文に見られた誤り

Ⅲ: 小学校5年生、6年生を対象に、2022年度中に通常の授業における教科書のワークシートとまとめテストに見られる誤り

# 取り組み I

## 【目的】

1. 小学校高学年はどの程度「読むこと」ができるか
2. 中学1年生はどの程度「書くこと」ができるか

「どういうところで間違いやすいか、予備知識があれば、

上手に児童に修正させることができるかもしれない」

# 方法

- (1) 都内複数校の公立小学校5年生30名と6年生23名対象  
子どもの音素獲得と文字の解読の関係の調査  
「文字クイズIV」(新井・久埜, 2022)使用  
2023年1月実施
- (2) 東京都、北海道の公立中学校1年生164名対象  
「書けるかなクイズ」(佐藤・大槻, 2023)使用  
2023年5月実施

# (1) 5年生と6年生の「読めるかな」

問題の種類	問題数	下位項目	「読める」自己評価（5段階）
単語選択問題	7問		有り
条件選択問題	4問		有り
大文字・生活単語	2問		有り

文字クイズⅣ（5段階）：1＝全く読めない～5＝かなり読めている

<p>この中で、「<b>食べられないもの</b>」はどれでしょう？ <b>4つ</b>あるよ。 見つけたら数字に○をつけよう</p>	1. panda    2. desk    3. ice cream    4. lemon 5. salad    6. table    7. pizza    8. watch	- 1 - 2 - 3 - 4 - 5
<p>3時のおやつに、どれを食べたいですか。<b>2つだけ</b>選んで、数字に○をつけよう。 <b>選んだ2つの意味を教えてください。</b></p>	1. banana    2. peach    3. chocolate    4. popcorn 5. cake    6. yogurt    7. potato chips    8. candy	- 1 - 2 - 3 - 4 - 5 【選んだ2つの意味は何ですか？】
<p>それぞれの国旗はどこの国かな？ 英語の名前を読んで、<b>線でつなげてみよう。</b></p>	 .  .  .  .  . JAPAN    BRAZIL    CANADA    the U.S.A.    CHINA	- 1 - 2 - 3 - 4 - 5 -

大文字





# (2) 中一「書けるかなクイズ」

問題の種類	問題数	自己申告(3段階)
数字(1~12)	12問	有り
曜日(日~土)	7問	有り



中1の5月実施

## ② 曜日を英語で言えますか？

What day is it today? 曜日を答えられますか？書いてあったら読めますか？  
カレンダーを見たりしなくても、書けますか？

曜日	言える？	読める？	書ける？	書いてみよう
(日)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(月)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(火)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(水)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(木)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(金)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(土)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	

# 小学校の先生方はどう推測されますか？

①ほとんど書けないだろう

小学校は1単元約8時間。音声中心の授業で書かせるのは2~3時間中の10分程度。定着させるのは無理でしょう。

②ほとんどの生徒は半分くらい書けるだろう

- ✓ 習ったものばかりだから、よほどでない限り忘れないだろう。
- ✓ 中学校では毎日書かせるのだから、小学校で聞いたことを思い出して楽に書いているでしょう。

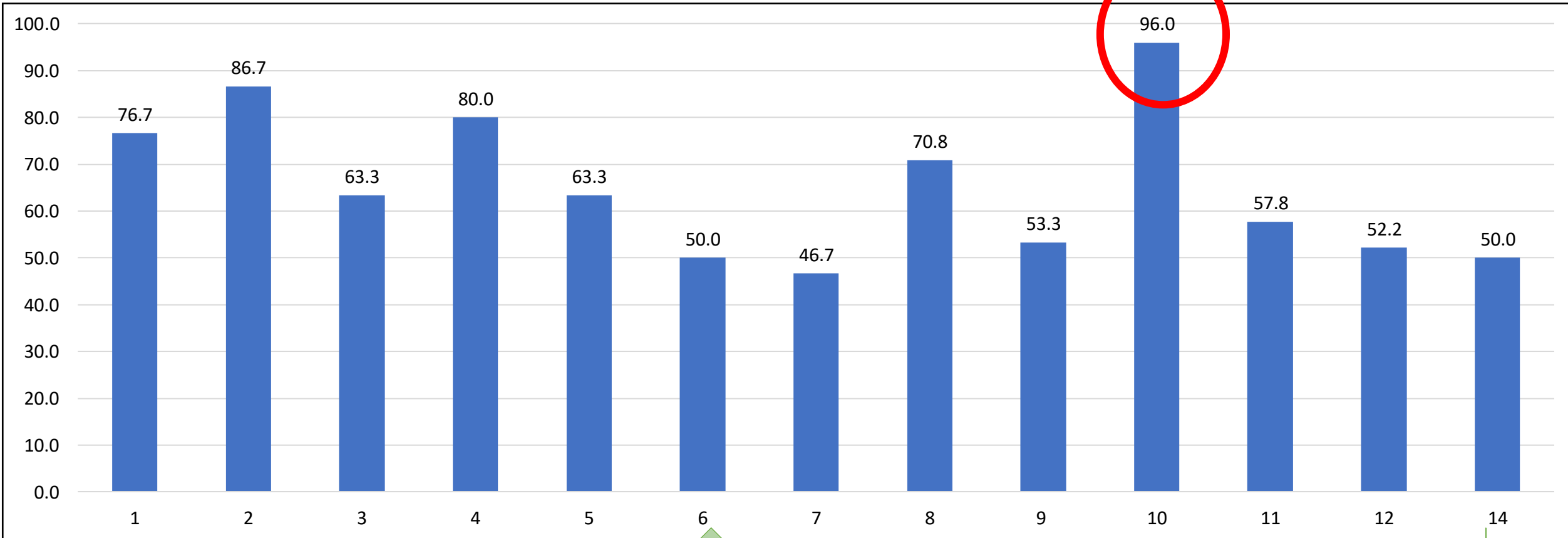
③ほぼ書けるはず

- ✓ 中学で教えてくれたら書けるようになるのでは？
- ✓ 小学校でも単語ドリルを購入し利用していた

# 結果

5年生「読めるかな」(30人分) 正答の結果より

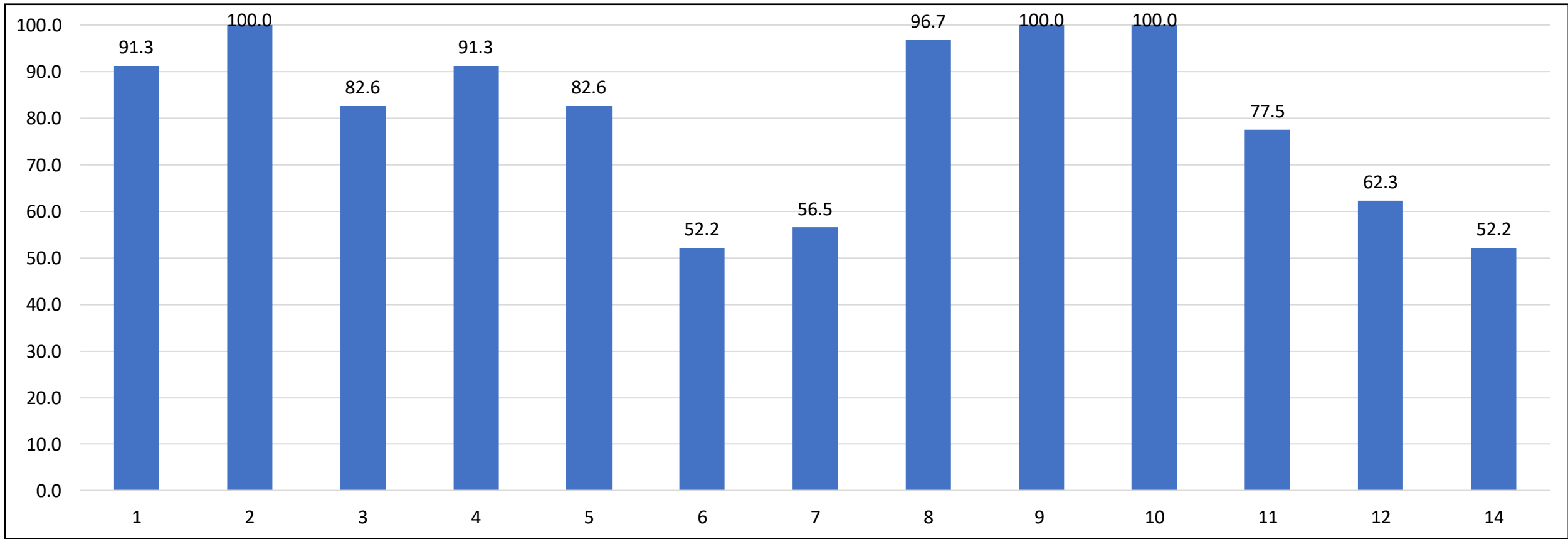
大文字の国名



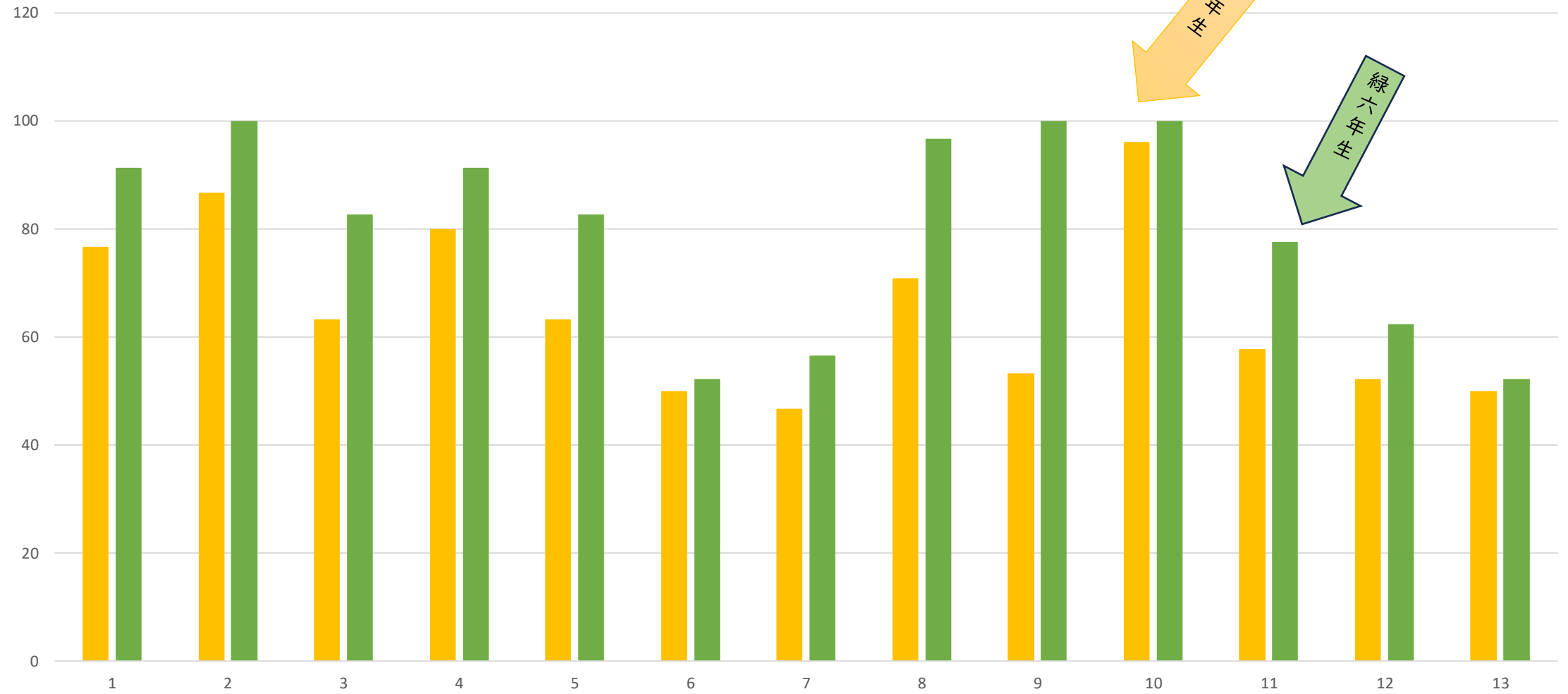
5~7:文字の3択(絵無し)

14:文の3択

# 6年生「読めるかな」(30人分) 正答の結果より



# 「読めるかな」5&6年正答率の比較

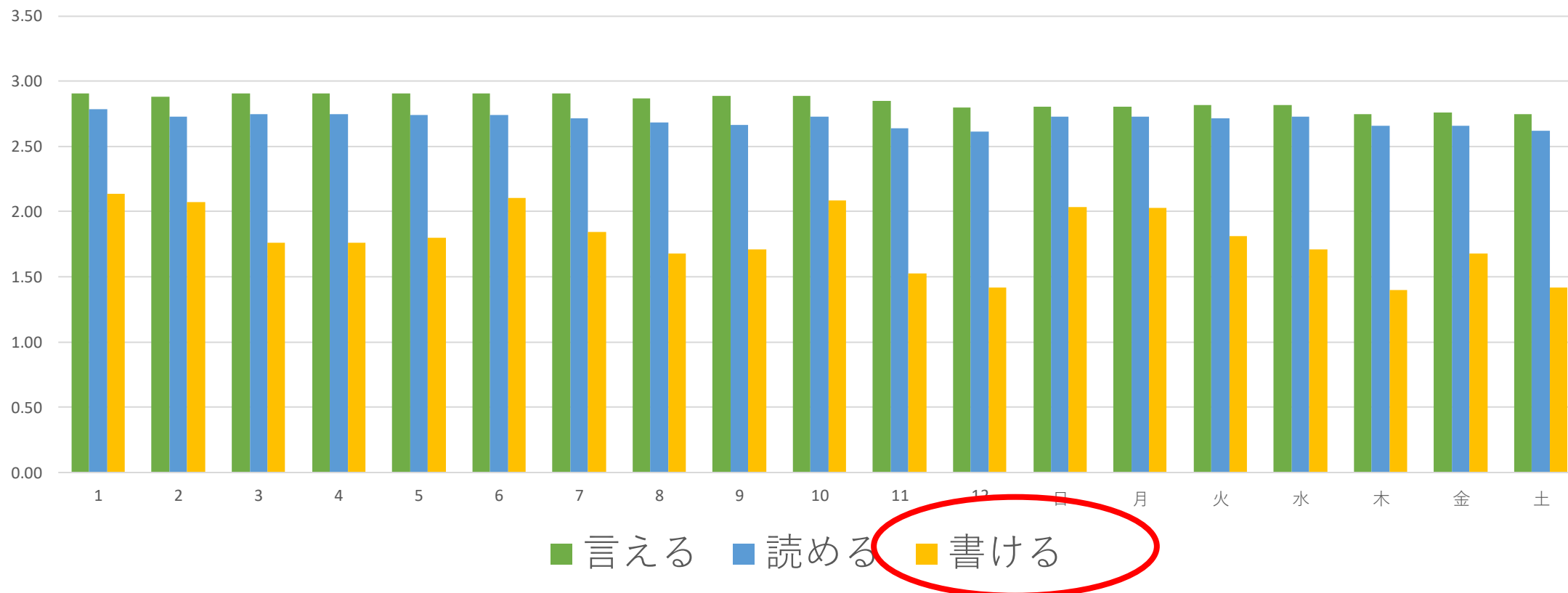


# I-(1)の結果から

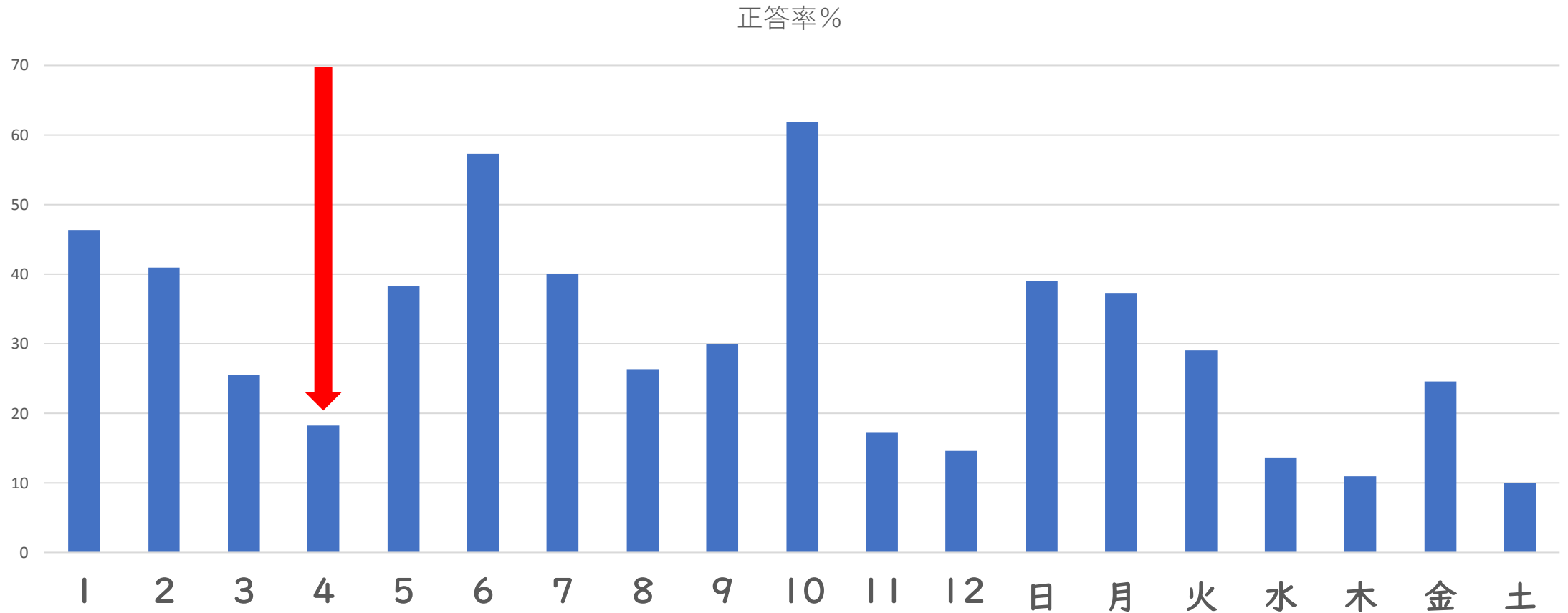
- 5年生と6年生の解答から、正答率が高く出る問題と低く出る問題は同じ傾向にあった
- 大文字表記の国名はどちらの学年も特に正答率が高かった
- 5年生と6年生の正答率はどの問題においても6年生が高かった

# (2) 「書けるかなクイズ」の語を 「言える」「読める」「書ける」と思うか (各3段階で申告)

言える度・読める度・書ける度 (平均点)



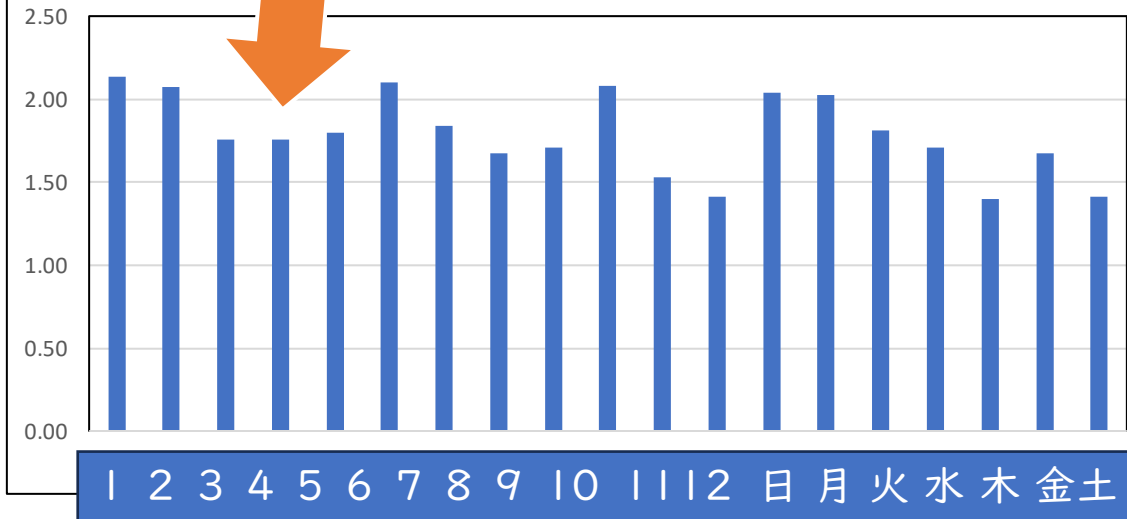
## (2) 「書けるかな」結果(110名 正答率)



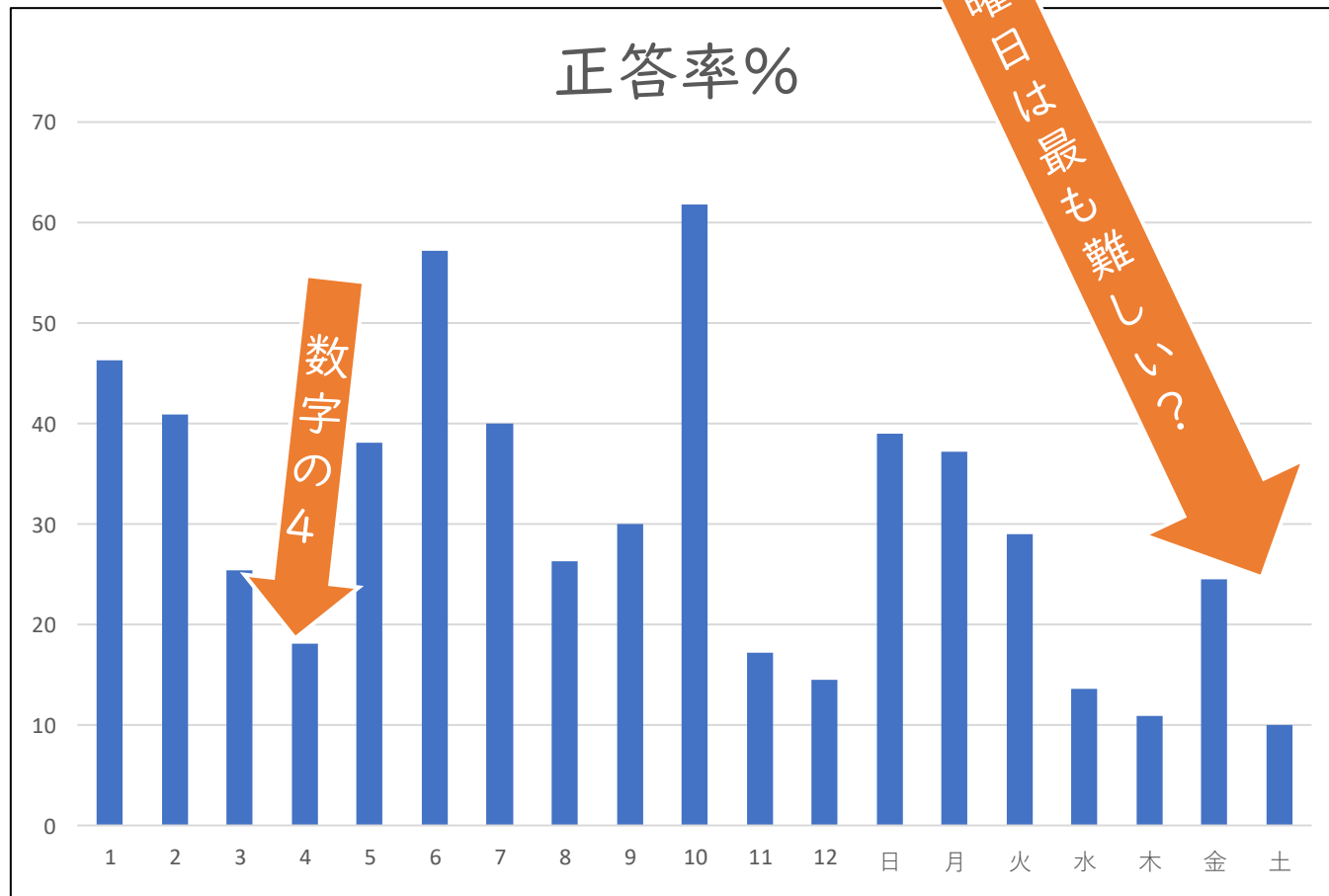


数字の4

### 書ける自己チェック



### 正答率%



数字の4

土曜日は最も難しい??

## Fourの解答（クロス集計）

書ける	four	for	fow	fou	foro	Foo	frau	fwor
未回答	0	0	0	0	0	0	0	0
×	1	2	0	0	0	0	0	0
△	3	8	2	2	0	0	0	0
○	16	3	1	1	1	1	1	1
合計	20	13	3	3	1	1	1	1

- 未回答、×=思い出せない、△=なんとなく覚えている、○=書けそう
- **33種類**の解答のうち、「○=書けそう」の出現頻度の高い順に1以上を抜粋  
(Fourとfourは合算)

# Saturdayの解答

書ける	Saturday	Sataday	Samday	Satrday	Saturday	Stabey	Satday
未回答	2	3	0	0	0	0	0
×	1	3	0	0	1	0	1
△	5	3	0	0	2	0	5
○	5	2	1	1	1	1	0
合計	13	11	1	1	4	1	6

- 未回答、×=思い出せない、△=なんとなく覚えている、○=書けそう
- **30種類**の解答のうち、「○=書けそう」の多い順に1以上を抜粋  
(Saturdayとsaturdayは合算)

## I-(2)の結果から

- ローマ字規則に合い、短い文字のten, sixは正答率が高い
- **Four=4 は、肯定的な自己申告が多いわりに、33種類もの綴りが現れた。**
- 自己申告では「書けそう」だと思っても誤りを産出している場合が多い

サポートしてあげられるかもしれない

# 取り組み I の考察

- 「カタカナ」や「ローマ字」を頼りに読んだり書いたりしようとしている
- 馴染みのある固有名詞、大文字の語には慣れているようだ
- 「書けるかなクイズ」の調査結果から、  
タイミングよく文字を見せることが必要だと考えられる。

<中学校でスムーズに学べるように>

「音」と「文字」のつながりを大切に指導することが大切なのは。



## 取り組みⅡ

中学入学後、音声から少しずつ書くことに慣れ、書き取りのテストなどはこの段階では行っていないが、言語材料を使った口頭練習の後で、発話したセンテンスを文字で書いてみる活動を引き続き行ってきた。

- 中学1年次3学期期末考査(2月下旬実施)

(例1) “Kaito is decorating the room.”

(教科書掲載のイラストを見て、現在進行形で説明する。)

(例2) “What are you doing?”

(イラストの登場人物が別の人物に「何をしているところかをたずねる」設定)

# エラーの事例

1. 日本語、カタカナ英語（「デコレーション」「デコる」など）  
の影響と思われるもの

- He is **decoretioning** room.
- Kaito is **dicration** the room.
- Kaito is **decreshion** in room.

# エラーの事例

## 2. 日本語のカタカナの音の影響と思われるもの

- /l/ /r/を混同していると思われるもの  
Kaito is decoleiting the room.  
Kaito is decolating the room now.
- /b/ /v/を混同していると思われるもの  
Josh is taking a bideo.



# エラーの事例

## 3. 冠詞や前置詞の抜け落ちの事例

“go to ...” の “to” が抜ける例が多々散見された。

- I want to go Niigata.
- I want to go Okinawa
- I'm wraiting birthday card.
- Josh is taking video.

a

a

\*弱形の音の脱落(書くと抜け落ちる)

# エラーの事例

## 4. 鏡文字の間違い “ b ” と “ d ”

- Kaito is **becoreting** the room.
- What are you **boing**?

# 考察

- ・日頃発音練習をするときに、/l/ /r/ /b/ /v/ の音を意識して発音することが大切である。
- ・冠詞や前置詞などの脱落は、明示的に文法を説明することもであるが、  
ディクトグロスなどの活動を通して、  
子どもたちに気づかせるなどの場面を創る必要があると考える。

## 取り組みⅢ

児童の書き残した文：書く過程で見られる誤り



目的・

- 児童の学習の躓きの原因はどこにあるか。
- 躓きを防ぐための手立て

# 書く過程で見られる躓き

## < ワークシートに見られる躓き >

- 躓きは、書き始めた時に見られたものや（最終）清書前に見られたもの
- 躓きに気づいた時点で、  
教師は個別指導や全体指導をし、児童は誤りを修正

# ワークシート例



One World Smiles worksheets.pdf

## 小学校高学年で見られた躰き

- 計337人の中に見られた躰きを、12項目で分類
  - 5年生: 3 units 対象児童延べ人数 203人
  - 6年生: 6 units 対象児童延べ人数 144人

# 書くことまでのプロセス

- 聞いた単語の意味が分かる、聞いたことがわかる。



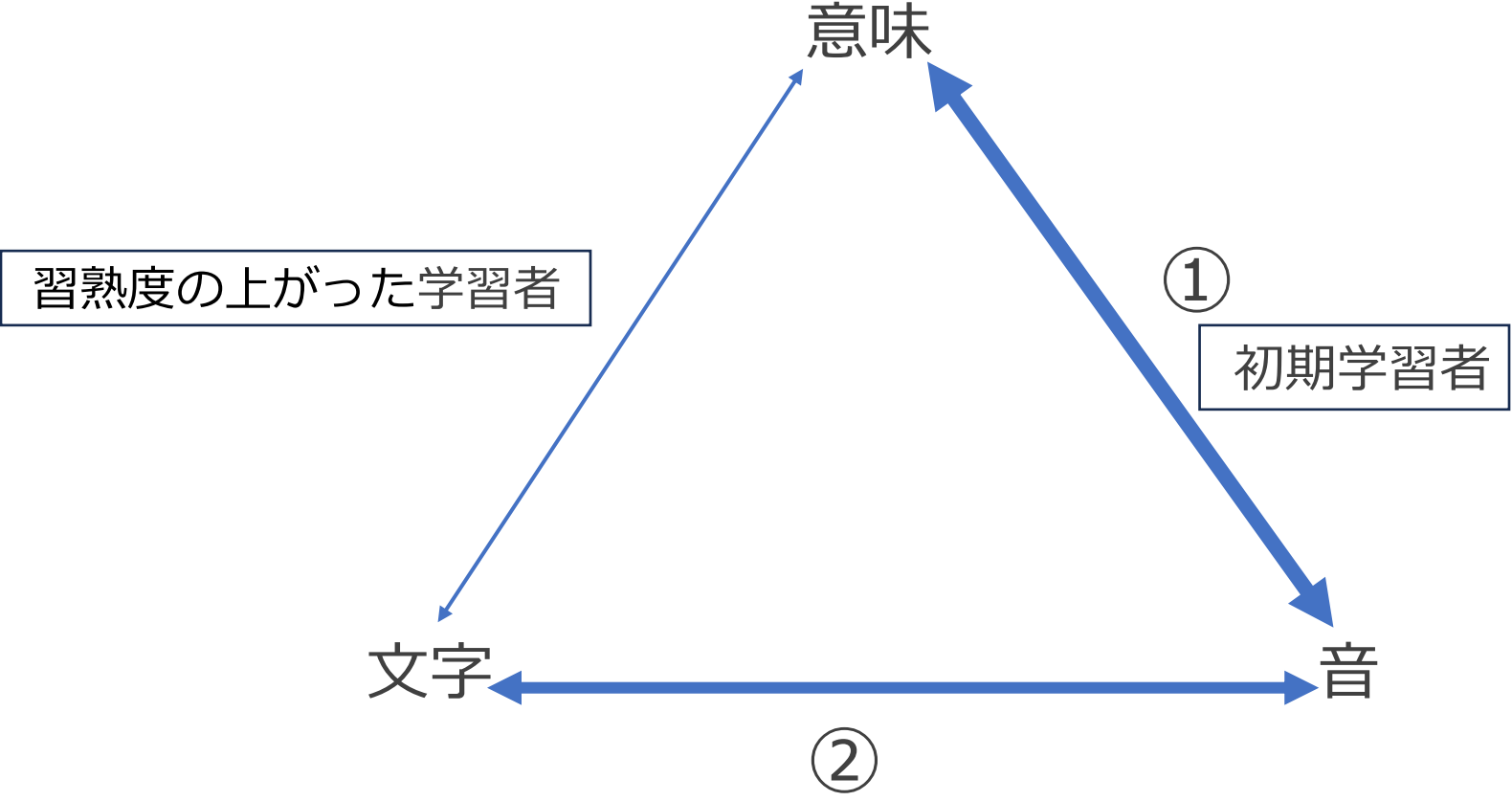
- 文字を見て音を想起でき、意味を読みとれる。



- 音声に出来るものを、自分で文字化することが出来る。

ただし、この推移（文字→単語→文を書く）には大量の学習量や時間が必要であろう。





躓きの原因はどのプロセスにあるだろうか。

• ①: 意味 ⇔ 音声

意味を音声化できる

音声を聞いて意味が分かる

• ②: 音声 ⇔ 文字

音声を文字化できる

文字を見て音声化できる

# 児童の書き残した文に見られる躰き

- ・計337人の中に見られた躰きを、12項目で分類



さらに、①、②に分類

③ (①、②に当てはまらない)

<つまずきを防ぐための手立て>

# 12の項目での誤り例

誤りを集計し、そのすべてを12項目に分類

1文に、誤りは1つとは限らない



別の項目にも、同じ文を記載

ここでは、各分類項目ごとに、いくつか例示

## ①、② 脱落 (a, the, 複数s, 三単現s)

• This is ( ) mother

②で見られた。

• He is ( ) volleyball player.

①, ②

• I want to eat ( ) hot dog.

音声のやり取りで、教師がrecastして、  
児童が気づき修正できるようにしている。

• I went to ( ) library.

②

• My best memory is ( ) school trip.

②

• She like( ) sing well.

②

\* 三単現のsの脱落は、この一文しか出ていません。

## ①、② toの脱落

- we went ( ) ( ) aquarium.
- I want ( ) go to France.

## ①, ② 動詞の脱落

She can ( ) basketball.

But he can't ( ) ( ) recorder.

## ② 語の欠落

• My best memory is ( ) ( ) to simoda.

\* 教科書では、the trip / the school tripが入る。



## ①, ② 語順

- I ate octopus a bowl.

### ここまでのまとめ

- ① 指導者が聞かせていても、正しく聞き取れていない発話上の誤り
- ② 正しく聞き取っている、正しく音声で応答はできているのに、文字化するときに表示する誤り

## ①, ②, ③ 綴り、アルファベット, 短縮形の影響

- It was **fan**.
- Dear **mather**
- she is a basketbal play**r**
- He can **ply** dodge ball.
- I want to **vizit** Rome.
- He can play **tha** piano.
- She can play **tadle** tennis.
- Bat se **cant** cook
- **Wats** Sports do you like
- **Hii** can fly high
- **Heys** is Genius.

## ①, ②, ③ ローマ字の影響

- I want to see koar**a**s.
- You can visit Rom**a**.

## ①, ②, ③ 形式formの混乱

- I enjoyed **drive**( ).
- I like **play**( ) a snare drum.
- You **are is** kind.
- I went to **a** library.
- I ate **an** udon.
- I like your **cutu** \* cuteness
- He can **singing**.
- she can **doriveng**. \* driving → drive
- he can **sings** well.
- do you like cat/**No I can't**

### ③ 正書法：大文字・小文字, スペース, 短縮'

- She is Great
- She is my favorite Woman
- I want to go to The U.S..
- I want to eat Tiramisu.
- She can Play Soccer.
- thank you.
- I went to hakuba.
- I like volley ball.
- He can speak withpeople.
- She can cook.
- He can't play soccer.
- He cant cook

音声だけでなく  
書くことの知識

### ③ 動詞の選択

• I want to **see** Paris.

\* 動詞の選択肢あり

• I **played** a relay.

\* 選択肢なし

### ③ 日本語思考

- He can study.
- She can't soccer. 動詞の脱落にも入れています。
- Heys can Commuication.

### ③ Google 翻訳

- It was we had fun.
- We play Daruma=San fell and relay.
- You can crab you eat. \* 打ち込む日本語表現



# 考えられる手立て

12項目で分類

さらに、①、②に分類



- ① 十分な音声インプット、やり取り、書くことの指導の急ぎすぎない。
- ② 文字の手助けのある音声指導：躓きの起こり易い場合は、音声を聞かせながら文字を書いて見せる。
- ③ 正書法などは、明示的な指導で、より意識化させる。

# 結果

- 児童の学習の躓きの原因は、どこにあるのだろうか。  
音声インプット、やり取りの不十分さであろう。
- 児童の読み取る関心は、高いと考えていいのではないか。  
初歩的な文字・単語への読み取る関心が育っている。
- 音声でのやり取りを大切にすることで、多くの躓きは避けることができるのではないか。  
基本は、音声指導、やり取りであり、大切である。が、板書技術や教科書の見せ方も大切である。

# 課題

間違えやすい英語の語法について、全部のリストができてるわけではないので、

- 教科書で指導する文型の中で、間違えやすい語法を整理する。
- 誤りをピックアップすることを始めたばかり、今後引き続き、対応策を考えていきたい。

子どもが書こうとしている段階で誤りが頻出していることに気づき、驚いている段階で放置するわけにはいかない。

「至急対応策を考えなければならない」と考えている。

# 躓きが起こらないようにするための指導：

今、取り組んでいる例

- ・「書くこと」、「読むこと」の前の音声インプットを十分に行う
- ・文字の手助け：文字提示のタイミング
- ・英語の表記では、音を文字でどのように表すか、  
(教科書などの)印刷物でみせたりする
- ・単語や文字を板書して書く姿を見せながら、文の語順、単語の spelling を見る機会を増やす

# 発表の終わりに — 《今後の研究に向けて》

---

- ★子どもが気づかせてくれた 地域を越えて共通してみられる語法の誤りから、「やり取り」の方法も含めて原因を考察し、spelling の誤りについても、その文字を選んだ理由を探りたい
- ★音素と文字の関係の認識=文中の既知の単語を見つけるため  
弱音に由来する基本ルールから逸脱した脱音・脱語・語順の誤り
- 聞き取った「英語の音」から 文字を類推し、読めるコトバを見つけ、単語や文の意味を読もうとする様子を見取る
- 英語の「音」を「文字」につなぎ、「読む力」を伸ばす指導方法を探り、「書こうとする力」につなげる

## 参考文献

- 文部科学省 (2017). 『小学校新学習指導要領』
- 久埜百合 (2023). 「リレー連載 英語教育時評 小学校英語一音と文字をつなぐために」『英語教育6 June 2023 Vol.72 No.3』 p.32, 大修館書店.
- 広瀬友紀 (2022). 『子どもに学ぶ言葉の認知科学』ちくま新書.
- 物井尚子・中井康平・久埜百合・ベバリー・ホーン (2023). 「中学1年生の英作文に見る誤りからの一考察」『千葉大学教育学部研究紀要 第71巻』39-45.